

紫外線が染料を分解することにより生じる変色は、クリーニング後の保管において発生することが多い現象です。今回は、保管中に変色が生じたと推測される事例を紹介します。

監修／クリーニング総合研究所

### 衣類の状態

ワンピースのスカート部分で、表面に露出している部分が赤みを帯びたような色になっている。利用者が保管後に着用しようとしたところ、変色に気づいたもの。

可能性が推測される。

### 紫外線

紫外線は、太陽光（日光）や蛍光灯の光に含まれる。太陽光のうち、地球に到達する光は、目に見える可視光（約52%）と、赤外線（約42%）、紫外線（約6%）の不可視光がある（図表1参照）。可視光は「赤、橙、黄、緑、青、藍、紫」の7色で構成され、人はこれによって色を識別している。

### 原因

色の変化は、表面に露出している部分が主体で、ひだの内側に隠れる部分は変化していないことから、太陽光や蛍光灯に含まれる紫外線により染料が分解して生じた

波長が200～380nm（ナノメートル）の紫外線は、エネルギー



紫外線の影響により色が変化したワンピース

の強い光で、UV-A、UV-B、UV-Cの3種類に分けられる。生物などに最も有害な紫外線はUV-Cで、ほとんどがオゾン層によって吸収され、地球上には届かない。UV-AとUV-Bは、可視光や赤外線に比べ、強力なエネルギーがあるため、染料や繊維を分解するなど大きな影響を与える。

用者はこうした現象を理解していないために色の変化の原因がクリーニング処理にあるものと思ひ込み、結果的にクリーニング店に苦情を持ち込むものと考えられる。特に、長期保管の可能性のある品物を返却する際には、直射日光や蛍光灯の光などができるだけ当たらないようにすることなどのアドバイスが利用者への啓発になる。



スカートを広げるとひだの内側に隠れた部分は変化していない

### 紫外線による変色の特徴

紫外線による変色には、光の当たる部分に変色する一方で光が遮られて陰になる部分は変色しない、変色している部分としていない部分の境目が明瞭で直線的、などの特徴がある。

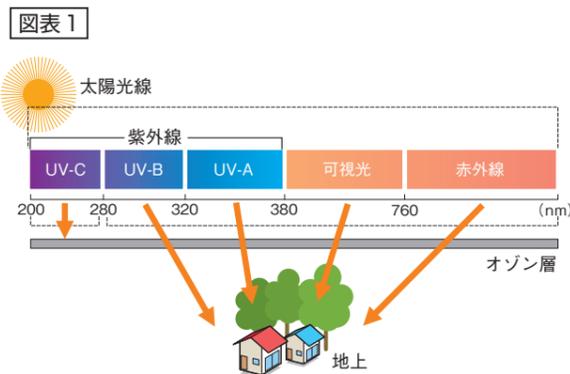
黒や紺などの濃色品は、変化が目立ちやすいことに加えて、クリーニングで汚れが除去されることにより変化が明瞭になることがあるため、受付および洗浄前のチェックが重要になる。

また、預り品を保管する場合は、紫外線を含まない照明を使用することが望ましい。

### 事故の防止対策

紫外線による色の変化は、利用者側での着用や保管などに生じている可能性が高い。しかし、利

- 品名…ワンピース
- 素材…シルク100%
- 取扱い絵表示…
- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング



●「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。全ク連HP <https://www.zenkuren.or.jp>「お知らせ」→「衣料管理情報」

着用・保管  
取扱い  
に注意